

## 小牧南遺跡 第2次 (No, 5)

位置情報URL：[小牧南遺跡位置情報](#)

### ○縄文時代の竪穴住居がみつかりました！

縄文時代の竪穴住居を5棟確認しました。いずれも縄文時代中期後葉～末葉(約4,500年前)で、これまで、県内ではこの時期の竪穴住居は約40棟確認されていますが、5棟以上存在する集落は限られています。

#### ・竪穴住居について

写真①(SH248)は形状のよくわかる竪穴住居で、平面の大きさが3.4×3.2mほどの円形に近い隅丸方形を呈しています。

床面の隅4箇所には、この住居の上屋を支えたであろう柱(白○)を据えた穴を確認しました。柱穴の大きさから、太さが約20cmの木を柱材として使用していたと考えられます。



写真① SH248完掘

また床面中央やや手前側には赤く焼けた炉跡(赤○)があり、写真②のように土器がたくさん貼りついていました。もともと一つの土器であったものが、縄文時代の人々による何らかの行為によって割られてしまったものと考えられます。通常このような炉跡では、土が全面に赤く焼けていることが多いですが、この炉跡は一部で焼けた土が認められたにとどまります。このことから、長期間にわたって使用したのではなく、断続的に使用された住居と考えられます。



写真② SH248火処土器出土状況

写真③(SH191)は住居内からたくさんの土器が出土した竪穴住居です。十字に黒い土を残している理由は、竪穴住居の中にどのようにして土が堆積したのかを知るためです。恐らくはこの住居で使用した土器や住居が廃絶した後に住居内に土器を大量に廃棄したのと考えられます。

この住居でも、土器を取り上げた後、写真①と同じような4本の柱と炉跡を確認しました。



写真③ SH191土器出土状況



写真④ SH191出土縄文土器  
・出土した遺物について



写真⑤ SH191出土縄文土器・石器

写真④と写真⑤はSH191内で出土した遺物を近くで撮影したものです。写真④は縄文土器の深鉢がいくつも重なった状態で出土していることがわかります。写真⑤は土器の中に、石鏃と呼ばれる弓矢に使用する石の矢先と石錘（おもりとして刺し網漁などで使用されるもの）も出土しています。

この集落で生活していた縄文時代の人々が、イノシシやシカなどの動物を弓矢で狩猟をしたり、川魚などを刺し網漁で獲得していたことが想定できます。



写真⑥ SH147完掘

・住居内の埋甕炉



写真⑦ SH147内埋甕炉

写真⑥（SH147）は住居内の左側に、埋甕炉と呼ばれる、地面に穴を掘って土器を据え置いた炉跡（赤○左）が認められた竪穴住居です。土器の縁や内側に焼けた痕跡が認められました。この住居内には埋甕炉の他にも、地面を掘っただけの簡易な炉跡（赤○右）もみられることから、埋甕炉は副炉と呼ばれるような機能を持っていたものと考えられます。副炉とは、主な炉を使用した際にでた灰や炭などを貯めておく機能を持っていたと考えられる施設です。このSH147の副炉は写真⑦のように石で封がされるような状態で見つかりました。この住居の住民が住居から立ち去る際に、意図的に石で封をしたものと考えられます。

【問い合わせ先】

三重県埋蔵文化財センター 調査研究3課 四日市整理所  
〒512-8064 三重県四日市市伊坂町126-1  
電話番号:059-363-3195/ファックス:059-363-3196  
E-mail: [maibun@pref.mie.jp](mailto:maibun@pref.mie.jp)